



世界遺産登録を勧告

イコモス

国の特別史跡・三内丸山遺跡（青森市）をはじめとする「北海道・北東北の縄文遺跡群」について、国連教育科学文化機関（ユネスコ）世界遺産委員会の諮問機関「イコモス」は、世界遺産一覧表への記載が適当と勧告しました。その結果が5月26日、ユネスコ世界遺産センターから文化庁に通知されました。7月に開かれるユネスコ世界遺産委員会で、正式に世界遺産として登録される見通しです。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、北海道と青森県・秋田県・岩手県にある17遺跡で構成されます。

文化庁ホームページによると、イコモスは同遺跡群について、約15,000年前にさかのぼる農耕以前における定住生活の在り方および先史時代の複雑な精神文化を示す点に、「顕著な普遍的価値」があると評価しました。

さらに、「先史時代における農耕を伴わない定住社会及び複雑な精神文化を示している」、「定住社会の発展段階やさまざまな環境変化への適応を示している」と位置付けました。

世界遺産登録への取り組みは、2005年に青森県がスタートさせました。2007年からは、枠組みが4道県に広がり、今年、世界遺産登録が実現する見通しとなりました。



「北海道・北東北の縄文遺跡群」を代表する、青森市の三内丸山遺跡（2021年5月28日撮影）

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく②③

紀行家が見た江戸時代後期の三内

【青森県立青森西高校おもてなし隊顧問・清野耕司教諭】東北新幹線「はやぶさ」が新青森駅を発発すると、進行方向右手に三内霊園が見えてきます。そして左側には三内丸山遺跡、青森市街地を望めるのも東の間、新幹線はあつという間に八甲田トンネルへ飲み込まれます。今回は、前回紹介した江戸時代の紀行家菅江真澄が、新青森駅のすぐ東側の石神神社で桜を眺めたあと、さらに歩を進めた三内村のお話をしましょう。

そもそも、真澄は寛政8年（1796年）4月14日の早朝に「このあたりに名だたる三内の桜」を見ようと油川を出発します。遠近（おちこち）の山々村々の桜を眺めながら新田村、石神村を経て三内村にやってきました。案内してくれた村長（むらおさ）は「名に負う三内の干本桜」と自慢気に話しますが、天明3、4年の凶作による飢饉（いいわゆる「天明の大飢饉」）のことで東日本で多くの死者を出した江戸時代最悪の飢饉

で桜の木も新（たきぎ）として伐られて少なくなってしまうと嘆きます。

しかし、飢饉から十数年が経過した今は若木や切り株から出た芽も多くなってきたので、もう10年もしれば昔の春のようになるだろうと語っています。この地でこの時代に確かに生活していた人の生の声は、自慢の桜も伐ってしまったなければならない飢饉の悲慘さをリアルに伝えています。

さて、真澄はこの三内村で「古堰の崩れより、縄形布形の古き瓦（中略）を掘り得しを見き。」とも記しています。これは、ひよっとすると…。

<次回へつづく>

◆ ◆ ◆
★研修を受けた青西おもてなし隊員の感想から
▼「菅江真澄が西高の近くを旅していると聞いて、私の家の方も旅しているのか調べてみようと思った」（2年・



笹村暖空さん）
▼「青森は自然が豊かであったり、縄文遺跡があったり、とても恵まれた環境なので、ずっと住みたい」（3年・浅野紗香さん）

<上の画像は地理院地図を加工>



蟹田－三厩間に夏の臨時列車

JR 津軽線

JR 東日本は、7月1日（木）から9月30日（木）の間に運行する夏の臨時列車を発表しました。新青森駅関係では、9月まで開催中の「東北デスティネーションキャンペーン」に合わせて、奥羽線と五能線を経由して青森駅と秋田駅を結ぶ快速列車「リゾートしらかみ」、「五能線クルージングトレイン」を運行します（ともに弘前駅－秋田駅の列車もあります）。

また、青森駅と三厩駅を結ぶ津軽線については、2020年に続き、北側の蟹田駅－三厩駅の間で、臨時列

車を運行します。3月から投入された新型車両 GVE400系=写真=を使用します。



▼ダイヤ：蟹田駅 9:52 発－三厩駅 10:31 着／三厩駅 10:42 発－蟹田駅 11:19 着
▼運行日：7月＝3日、4日、10日、11日、17日、18日、22-25日、31日／8月：21日、22日、28日、29日／9月：4日、5日、11日、12日、18-20日、23-26日
★青森大学・櫛引研究室は JR 東日本盛岡支社、津軽線沿線の外ヶ浜町・今別町とともに、「JR 津軽線プロジェクト」を展開し、地域振興策を探っています。

青森県立美術館 時代映す「ユーモアと祝祭」

コレクション展 2021-2



青森県立美術館で9月5日(日)まで、2021年度の第2期コレクション展「ユーモアと祝祭」が開かれています。「コロナ禍も意識して、所蔵作品の中から、人の心を明るくする作品を選ぶ一方、1960～70年代を中心に、笑いで社会や政治を風刺し、鋭く問題を切っている作品群を選びました」と池田亨・美術企画課長は狙いを解説します。

明るいい作品としては横方志功の動物画などが並びます。テーマの効果が、動物たちや金魚ねぶたが、不可思議な笑みを浮かべているように感じられます。また、作中の人々の表情も皆、柔らかな笑顔に見えてきます。

時代を切り取った作品では、豊島弘尚の油彩画「例えは嘲笑いの中で変容した頭部」(1966年=写真)が目を引きまします。当時、急速に普及し影響力を拡大していたテレビをモチーフに、無数の語句やさまざまな「ちのの形」を埋め込んであります。1965年に描かれた中村宏の油彩画「観光独裁」は、旅行チームがもたらした状況や空気を、皮肉っぽくカラフルに描いています。

ほかに、臨時休館中の青森県立郷土館が所蔵する野沢如洋の「春の海秋の海図屏風」や松木満史の代表作「ラリュース」、青森県内の5美術施設の連携プログラムによる建築関連の模型・映像作品も展示されています。

三内丸山遺跡

「6本柱」長寿命化工事ルポ

割れ目を樹脂で補修 キッツキの穴も

三内丸山遺跡のシンボルとして、「6本柱」の名で親しまれてきた大型掘立柱建物で、4月から6月初めにかけて、長寿命化対策工事の見学会が開かれました。本号は、5月22日の見学会のルポをお届けします。日頃、目にすることができない柱の頂部を見たり、遺跡を見下ろす景観を楽しんだり、貴重な機会になりました。

◆ ◆ ◆
「6本柱」の柱は高さ約15m、直径は約1mもあります。1996年、出土した柱穴と本柱を参考に、ロシアから輸入されたクリ材を使って復元されました。それから25年を経て、割れ目が入るなどの傷みが見られたため、長寿命化対策工事が行われることになりました。

三内丸山遺跡センターの文化財保護主事・木村恵理さん=写真右上=の案内で、シートに覆われた「6本柱」の足場を登っていくと、見慣れたはずの柱が次第に、

とても近い生き物のように思われてきました。

柱はあちこちに割れ目が入り、特に頂部はえぐれた状態になっていたそうです。ところどころ、キッツキが開けたとみられる穴もあります(写真左・赤い矢印の部分)。これらを樹脂で補修し、違和感のないよう着色していきます。

歴史的建造物の補修は国内各地で行われていますが、縄文時代の遺構を復元した施設の補修は、あまり例がないといえます。

あいにくの雨模様でしたが、遠くにつつすると、八甲田連峰を望めました(写真右下)。



Twitter



Instagram



「さんまる」が遺跡を案内



Facebook
YouTube



ぐるみが登場する、「ぬい撮り」の手法を活用した投稿も。年齢に関係なく親しめるように、工夫を凝らしています。

アカラントは、Instagramが「sannaimariyamaiseki」、Twitterが「@sannaimariyamai1」、Facebookのアドレスは「https://www.facebook.com/sannaimariyamaiseki305」、Youtubeチャンネルは「https://www.youtube.com/channel/UC8_2adWcb9edg05eUR1WXVw」です。
★この記事にあるQRコードからも直接閲覧できます。



三内丸山遺跡センターは2021年4月、SNS運用を始めました。Twitter、Instagram、Facebook、YouTubeのアカラントやアドレスを開設。世界遺産登録を視野に、国内外への迅速な情報提供や、現場の息遣いの発信、縄文文化に対する理解のサポートなどが期待されます。SNSの映像や画像、文章は、催しの情報や発掘の模様、遺跡内の光景、出土品など、多様な内容を伝えています。案内役として、縄文時代中期の「板状土偶」をかたどった遺跡のマスコットキャラクター「さんまる」のぬい

見学時間 9:00～18:00(入場は閉館の30分前まで)
休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日～1月1日
観覧料 一般410円(330円)/高校・大学生等200円(160円)/中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL https://sannaimariyama.pref.aomori.jp



三内丸山遺跡センター



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)
休館日 毎月第2、第4月曜日(祝日の場合は翌日)
観覧料 一般510円(410円)/高校・大学生300円(240円)/小学生・中学生100円(60円)

※()内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL http://www.aomori-museum.jp



新青森駅⇒三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」(東口)約20分・300円、タクシー(南口)約10分・1,000円前後、徒歩約30分
⇒青森県立美術館：「ねぶたん号」(東口)約10分・300円、タクシー(南口)約12分・1,200円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカラント



<ネット情報>

Facebook ページとInstagram アカラントを開発し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF版を青森西高校ホームページ(<http://www.aomorinishi-hasen.ed.jp/>)に掲載しています。いずれも、右側にのQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・楳引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。
〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部 楳引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

縄文文化 FB ページ Instagram

